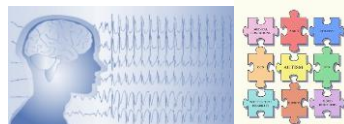


2023年度てんかん地域診療連携体制整備事業  
第2回てんかん診療支援コーディネーター研修会

2023年12月17日(日) 10:00~14:30

全国てんかん地域診療支援整備事業の現況

国立精神・神経医療研究センター病院  
てんかん診療部、総合てんかんセンター  
中川栄二



2023年度第2回てんかん診療支援コーディネーター研修会と  
全国てんかん対策連絡協議会のお知らせ

2023

12/17日

ZOOMウェビナーで開催

参加費無料



以下URLもしくはQRコードより事前登録してください。  
ご参加用リンクを送付いたします。

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/3416994065735/WN\\_35xQL1-hT3i-TNt9sEbWow](https://us02web.zoom.us/webinar/register/3416994065735/WN_35xQL1-hT3i-TNt9sEbWow)

てんかん診療支援コーディネーター研修会プログラム (各講演研修30分)

(敬称略)

1. 全国てんかん地域診療支援整備事業の現況 / 中川 栄二
2. 精神症状と精神科治療の基礎知識 / 渡邊 さつき
3. 院内認定てんかん専門医療者制度とその役割 / 加藤 慎吾
4. てんかんと心理社会 / 小川 舞美

12時~12時半休憩



5. てんかんと発達障害 / 中川 栄二
6. 長時間ビデオ脳波モニタリング検査の実際 / 佐藤 美輝
7. てんかんに対するデバイス治療 / 岩崎 真樹
8. てんかん患者が利用できる社会福祉制度 / 宮坂 歩

15時~

2023年度第2回全国てんかん対策連絡協議  
ZOOMミーティングで開催

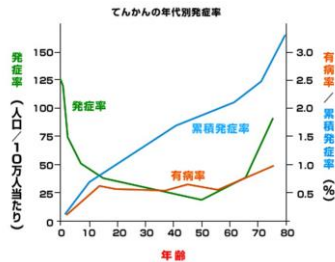
次ページの注意事項を  
よくお読みになってください



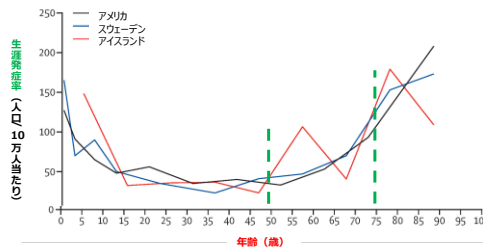
## てんかん患者数、増加傾向か減少傾向か？

- てんかんは、小児から高齢者まで、どの年齢でも誰でもが発症する可能性がある患者数の多い病気（0.8～1%：本邦約100万人）
- 特に**高齢者の発症率は高く**、高齢者人口の増加しているわが国では、今後更にてんかん医療の必要性が増加する
- てんかん患者の7～8割は適切な内科的・外科的治療により発作が抑制され、日常生活や就労を含む社会生活を営むことが可能である
- わが国では**成人てんかんを診る専門医**が不足している
- **てんかんに対する知識不足と偏見**から、患者の社会進出が妨げられている

・てんかんの発症率は最年少および最年長の年齢層で最も高い。  
 ・発症率は50歳以降着実に増加し、75歳以上の人の発症率が最も高くなる



Haut SR, et al. Lancet Neurol. 2006 5(2):148-157



Sen A, et al. Lancet. 2020 ;395(10225):735-748.

## WHO2022年1月：150回業務執行理事会

### 「領域横断的な、てんかんと神経疾患合同の世界的行動指針」(IGAP)案決議

#### Intersectoral Global Action Plan on Epilepsy and other Neurological Disorders Adopted by the World Health Organization

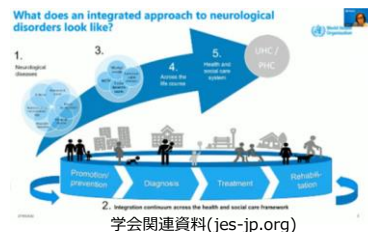
On 27 January 2022, at the 150th session of the World Health Organization Executive Board, the draft Intersectoral Global Action Plan on Epilepsy and other Neurological Disorders (IGAP) was adopted. The draft IGAP will be presented to the World Health Assembly for an approval vote by all Member States in May 2022.



#### 2022年5月のジュネーブ75回WHO総会で承認決議された

Thank you to the following Executive Board members who spoke in favour of the IGAP: Botswana, Burkina Faso, Ghana, Grenada, Guinea-Bissau, India, Japan, Kenya, Madagascar, Malaysia, Oman, Russian Federation, Rwanda, Tunisia, the UAE and UK. Other Member States that supported the IGAP are all African Nations, Australia, Brazil, China, Israel. ILAE is very grateful for the attention to the needs of people with epilepsy on part of the WHO, as prevention, detection, care, treatment, and equal opportunities for people with epilepsy and other Neurological Disorders

### 2031年までの10年計画の世界的行動指針(IGAP)



<https://www.who.int/publications/m/item/intersectoral-global-action-plan-on-epilepsy-and-other-neurological-disorders-2022-2031>

学会関連資料(jes-jp.org)

# 領域横断的な、てんかんと神経疾患合同の世界的行動指針 (IGAP)

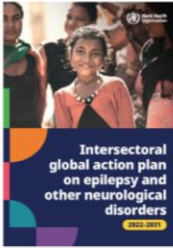


Home / Health Topics ▾ Countries ▾ Newsroom ▾ Emergencies ▾ Data ▾ About WHO ▾

Home / Publications / Overview / Intersectoral global action plan on epilepsy and other neurological disorders

## Intersectoral global action plan on epilepsy and other neurological disorders

2022-2031



2022年5月、加盟国は「てんかんおよびその他の神経疾患に関する領域横断的グローバル行動計画2022-2031」を採択した。この計画は、神経疾患患者、その介護者、家族の治療・ケアへのアクセスと生活の質を改善し、ライフコース全体にわたって脳の健康を促進することを目的としている。

この計画には、世界目標を達成するためにすべての関係者が取るべき行動が含まれている。世界行動計画の戦略目標は、政策とガバナンス、効果的でタイムリーかつ迅速な診断、治療、ケア、プロモーションと予防、研究、イノベーション、情報システム、てんかんに対する公衆衛生の対応といった問題を取り上げている。

## 領域横断的な、てんかんと神経疾患の世界的行動指針案(IGAP)



(国際抗てんかん連盟のホームページより)

About ILAE

Guidelines

Congresses

Regions & Countries

Journals

Partners

### Draft Intersectoral Global Action Plan on Epilepsy and Other Neurological Disorders (IGAP)



**90%**の患者さんは、てんかんが、治療可能な、中枢神経系(脳)の病気であることを理解しています。

**80%**の患者さんは、適切な費用で、安全な抗てんかん発作薬で治療できる環境にいます。

**70%**の患者さんは、良好にてんかん発作が抑制されています。

学会関連資料(jes-jp.org)

**World Health Organization unanimously approves  
plan to improve epilepsy care, reduce stigma**

By Nancy Volkens, ILAE communications officer

31 May, 2022



## 医学的、社会的改善が喫緊の課題

てんかんと神経疾患合同の世界的行動指針(IGAP)がジュネーブ75回WHO総会で、承認決議された。

116カ国の加盟国と、4つの国際関連団体が、この計画を支持する意見表明をして、満場一致で可決された。

IGAPは、てんかんと神経疾患を有する人々のためにケアと公益活動を提供して、様々な格差に対処することを宣言している。問題は全世界に存在して、様々な部門の垣根を越えて、包括的で統合された行動を保証していくものである。

**IGAPには2つの大きな目標が掲げられている。**

- 1) てんかんに対する公益活動の充足を2021年から今後10年間で50%以上改善する。**
- 2) 80%の加盟国で、法的担保を明確にして、てんかんを有する人々の権利を守り、改善していくことを目標とする。**

学会関連資料(jes-jp.org)

**World Health Organization unanimously approves  
plan to improve epilepsy care, reduce stigma**

By Nancy Volkens, ILAE communications officer

31 May, 2022



## Stigma(烙印)と差別が、多くの事案を阻害してきた

3分野の課題

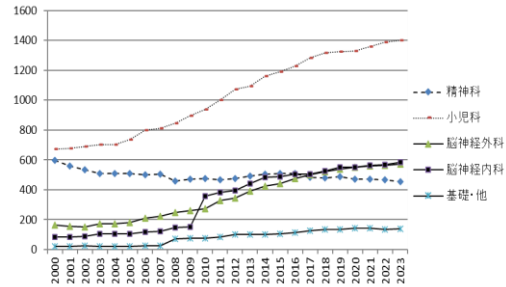
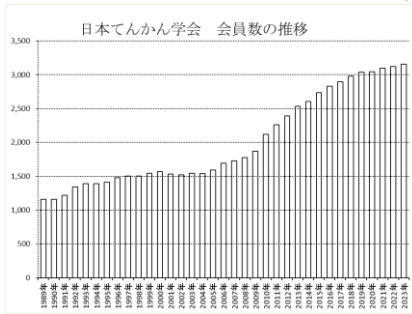
- 1) てんかんを有する人々に対して公益活動：  
treatment gaps, lower-income countries, rural areas.
- 2) てんかんを有する人々の雇用とサポート：  
They are stigmatized and discriminated against as a result of the misconceptions and negative attitudes that surround epilepsy employment, marry
- 3) てんかん発作は、神経疾患の治療の入り口になる。

**IGAPにより、予防医学、疾患の早期診断、治療、ケアをサポートして、全世界のてんかんと神経疾患を有する人々に均等な機会を提供する。**

**未だに全世界で、てんかんを有する人々とその家族は、てんかんという烙印、差別(無視、誤解、冷徹な態度など)により、常に苦しんでいる。**

学会関連資料(jes-jp.org)

## 日本てんかん学会 会員数・専門医数の変化



会員の専門割合 2023年9月1日現在

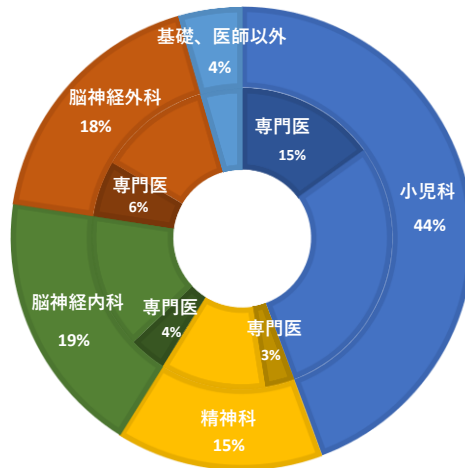
	2022.9	2023.9
小児科	1388	<b>1400</b>
精神科	468	<b>458</b>
脳神経内科	566	<b>585</b>
脳神経外科	563	<b>573</b>
基礎・医師以外	136	<b>140</b>
合計	3121	<b>3156 (人)</b>

てんかん専門医の専門割合 2023年10月1日現在

	2022.9	2023.10
小児科	454	<b>476</b>
精神科	100	<b>100</b>
脳神経内科	115	<b>128</b>
脳神経外科	173	<b>190</b>
基礎・医師以外	0	<b>0</b>
合計	842	<b>894 (人)</b>

2023年度日本てんかん学会社員総会資料および日本てんかん学会HP専門医名簿参照

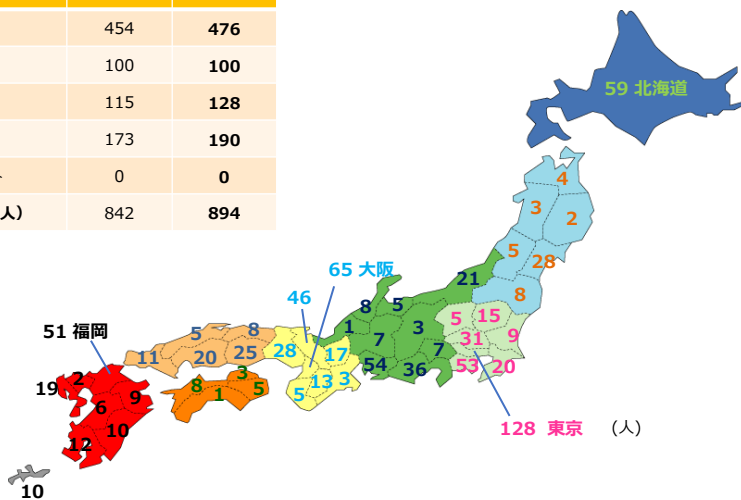
## 日本てんかん学会会員構成



2023年度日本てんかん学会社員総会資料および日本てんかん学会HP専門医名簿参照

## てんかん学会専門医の地域分布

	2022.9	2023.10
小児科	454	476
精神科	100	100
脳神経内科	115	128
脳神経外科	173	190
基礎・医師以外	0	0
合計 (人)	842	894



2023年度日本てんかん学会社員総会資料および日本てんかん学会HP専門医名簿参照

第13回医療計画の見直し等に際する検討会  
平成30年9月28日 資料 1-2

### 第7次医療計画における5疾病・5事業 (がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、**精神疾患**、救急、災害、へき地、周産期、小児) 及び在宅医療の医療体制

#### (目次)

・がん	1	・救急医療	97
・脳卒中	17	・災害時における医療	112
・心筋梗塞等の心血管疾患	34	・へき地の医療	125
・糖尿病	51	・周産期医療	140
・精神疾患	63	・小児医療(小児救急含む)	158
		・在宅医療	173

各都道府県では、国の定める基本方針に基づき、地域の実情に応じて医療提供体制を充実させるために、医療計画を作成している。医療計画は原則、6年ごとに改定され、最新版は**第7次医療計画(2018～2023年度)**。

**5疾病・5事業**は、この医療計画に記載されている重要なテーマ。疾病や事業ごとの医療資源、医療連携に関する現状を把握し、課題の抽出や見直しが行われている。

・**5疾病…5つの疾病(がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患)**

・**5事業…5つの事業(救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療(小児救急医療を含む))**

なお、**5疾病・5事業**は、**第8次医療計画(2024～2030年度)**から「**振興感染症拡大時の医療**」が事業に追加され、**5疾病・6事業**になる。



# 精神疾患の医療体制

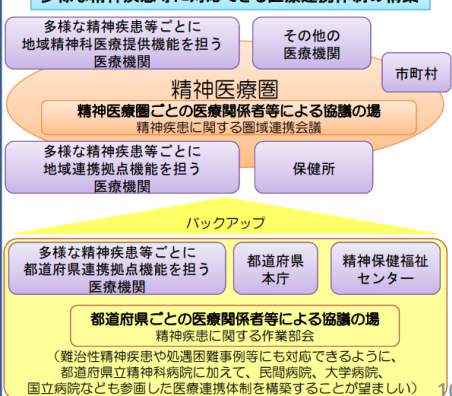
## 【概要】

- 精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指す。このため、平成32年度末・平成37年(2025年)の精神病床における入院需要(患者数)及び、地域移行に伴う基盤整備量(利用者数)の目標を明確にした上で、障害福祉計画等と整合性を図りながら基盤整備を推し進める。
- 統合失調症、うつ病・躁うつ病、認知症、児童・思春期精神疾患、依存症などの多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、多様な精神疾患等ごとに医療機関の役割分担・連携を推進するとともに、患者本位の医療を実現していけるよう、各医療機関の医療機能を明確化する。

### 精神障害にも対応できる地域包括ケアシステムの構築



### 多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築



厚生労働省HPより引用

000965774.pdf (mhlw.go.jp)

13

## 指針のポイント① (医療機能の明確化)

精神疾患の医療体制に求められる医療機能を地域精神科医療提供機能、地域連携拠点機能、都道府県連携拠点機能と示している。都道府県は、多様な精神疾患等毎に各医療機能の内容について、地域の実情に応じて柔軟に設定する。

### 対応方針 (多様な精神疾患等ごとに医療機能の明確化)

\*アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症に区分して対応

医療機能	役割要件	統合失調症	うつ病等	認知症	児童・思春期	発達障害	依存症(*)	PTSD	高次脳機能障害	てんかん	精神科救急	身体合併症	自殺対策	災害精神	医療観察	
都道府県連携拠点機能	目標	①患者本位の精神科医療を提供すること②ICFの基本的考え方を踏まえながら多職種協働による支援を提供すること③地域の保健医療福祉介護の関係機関との連携・協力を行うこと④医療連携の都道府県拠点の役割を果たすこと⑤情報収集発信の都道府県拠点の役割を果たすこと⑥人材育成の都道府県拠点の役割を果たすこと⑦地域連携拠点機能を支援する役割を果たすこと														
	求められる事項(例)	①患者の状況に応じて、適切な精神科医療(外来医療、訪問診療を含む。)を提供するとともに、精神症状悪化時等の緊急時の対応体制や連絡体制を確保すること②精神科医、薬剤師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理技術者等の多職種によるチームによる支援体制を作ること③医療機関(救急医療、周産期医療を含む。)、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等と連携し、生活の場で必要な支援を提供すること④地域連携会議を運営すること⑤積極的な情報発信を行うこと⑥専門職に対する研修プログラムを提供すること⑦地域連携拠点機能を担う医療機関からの個別相談への対応や、難治性精神疾患・処遇困難事例の受入対応を行うこと														
地域連携拠点機能	目標	①患者本位の精神科医療を提供すること②ICFの基本的考え方を踏まえながら多職種協働による支援を提供すること③地域の保健医療福祉介護の関係機関との連携・協力を行うこと														
	求められる事項(例)	①患者の状況に応じて、適切な精神科医療(外来医療、訪問診療を含む。)を提供するとともに、精神症状悪化時等の緊急時の対応体制や連絡体制を確保すること②精神科医、薬剤師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理技術者等の多職種によるチームによる支援体制を作ること③医療機関(救急医療、周産期医療を含む。)、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等と連携し、生活の場で必要な支援を提供すること														
地域精神科医療提供機能	目標	①患者本位の精神科医療を提供すること②ICFの基本的考え方を踏まえながら多職種協働による支援を提供すること③地域の保健医療福祉介護の関係機関との連携・協力を行うこと														
	求められる事項(例)	①患者の状況に応じて、適切な精神科医療(外来医療、訪問診療を含む。)を提供するとともに、精神症状悪化時等の緊急時の対応体制や連絡体制を確保すること②精神科医、薬剤師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理技術者等の多職種によるチームによる支援体制を作ること③医療機関(救急医療、周産期医療を含む。)、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等と連携し、生活の場で必要な支援を提供すること														

※疾患等毎に都道府県連携拠点機能を担う医療機関を、1か所以上医療計画に明記することが望ましい。複数明記する場合は、一体的に機能できるように考慮すること。

厚生労働省HPより引用

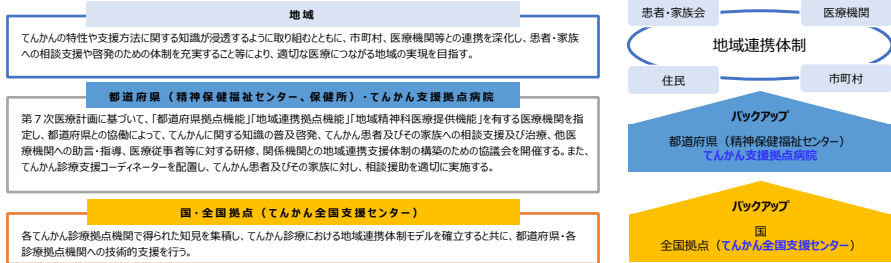
14

# てんかん地域診療連携体制整備事業

てんかん患者が、地域において適切な支援を受けられるよう、てんかん診療における地域連携の在り方を提示し、てんかん拠点医療機関間のネットワーク強化により全国で均一なてんかん診療を行える体制を整備。

## 現状と課題

平成30年度からの第7次医療計画により、各都道府県において、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」を踏まえて、多様な精神疾患等ごとに医療機能を明確化することされており、国が国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターをてんかん全国支援センターに指定し、都道府県において、てんかんの治療を専門的に行っている医療機関のうち、1か所をてんかん支援拠点病院として指定し、各都道府県のてんかんの医療連携体制の構築に向けて、知見の集積やてんかん診療のネットワーク作り等を引き続き進めていく必要がある。



## 期待される成果

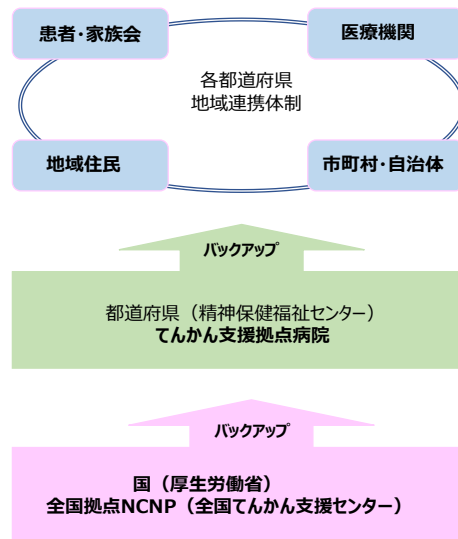
1. 地域住民や医療従事者に対して、てんかんに関する正しい知識の普及
2. てんかん診療における地域連携体制構築、てんかん診療の均てんかん

15

2023年度てんかん診療コーディネーター研修会資料厚労省より

## 厚労省・自治体による てんかん地域診療連携体制事業（てんかん整備事業）

てんかん地域診療連携体制構築（2018年開始）



中川栄二. 医療. 2023.



# 事業内容

てんかんの専門医療機関の地域数の増加、まずは三次医療圏（都道府県）の設置を目指し、てんかん支援拠点病院を設置する都道府県に対して国庫補助（1/2）を行う。

## 主な事業内容

1. てんかん患者・家族の治療及び相談支援
2. てんかん治療医療連携協議会の設置・運営、
3. てんかん診療支援コーディネーター（※）の配置
4. 医療従事者（医師、看護師等）等向け研修、
5. 市民向けの普及啓発（公開講座、講演、リーフレットの作成等）

※てんかん診療支援コーディネーター

精神障害者福祉に理解と熟意を有し、てんかん患者及びその家族に対し相談援助を適切に実施する能力を有する医師、福祉に関する国家資格を有する者

## てんかん支援拠点病院の要件

てんかんの治療を専門に行っている次に掲げる要件を全て満たす医療機関

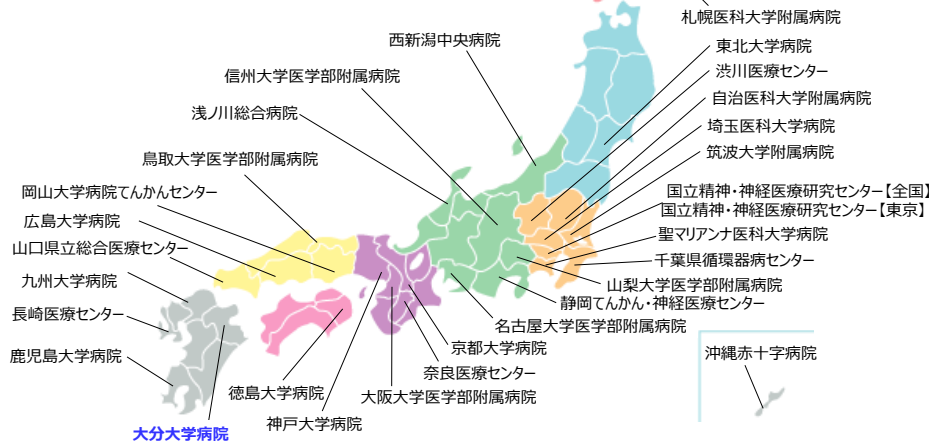
1. 日本てんかん学会、日本神経学会、日本精神神経学会、日本小児科神経学会、又は日本脳神経外科学会が定める専門医が1名以上配置されていること。
2. 脳波検査やMRIが整備されているほか、発作時ビデオ脳波モニタリングによる診断が行えること。
3. てんかんの外科治療のほか、複数の診療科による集学的治療を行えること。

## 参画医療機関（令和5年11月時点）

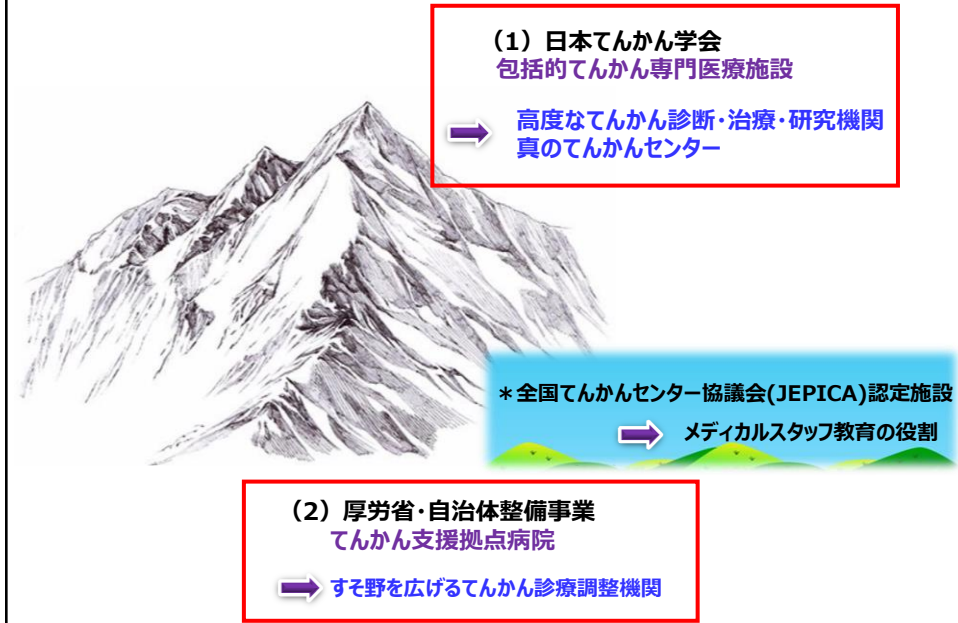
- ・ てんかん全国支援センター（1か所）：国立精神・神経医療研究センター
- ・ てんかん支援拠点病院（29か所）：北海道（札幌医科大学附属病院）、宮城県（東北大学病院）、茨城県（筑波大学附属病院）、栃木県（自治医科大学附属病院）、群馬県（渋川医療センター）、埼玉県（埼玉医科大学病院）、千葉県（千葉県循環器病センター）、東京都（国立精神・神経医療研究センター）、神奈川県（聖マリアンナ医科大学病院）、新潟県（西新潟中央病院）、石川県（浅川総合病院）、山梨県（山梨大学医学部附属病院）、長野県（信州大学医学部附属病院）、静岡県（静岡てんかん・神経医療センター）、愛知県（名古屋大学医学部附属病院）、京都府（京都大学医学部附属病院）大阪府（大阪大学医学部附属病院）、兵庫県（神戸大学医学部附属病院）、奈良県（奈良医療センター）、鳥取県（鳥取大学医学部附属病院）、岡山県（岡山大学病院てんかんセンター）、広島県（広島大学病院）、山口県（山口県立総合医療センター）、徳島県（徳島大学病院）、福岡県（九州大学病院）、長崎県（長崎医療センター）、鹿児島県（鹿児島大学病院）、大分県（大分大学病院）、沖縄県（沖縄赤十字病院）

## てんかん全国支援センター及びてんかん支援拠点病院

てんかん全国支援センター（全国1か所）  
てんかん支援拠点病院（全国29か所）



## てんかん医療体制の構築



## てんかん学会 包括的てんかん専門医療施設：基準

2020年度から開始

以下の条件1)～7)のすべてを満たすこと。

- 1) 日本てんかん学会認定研修施設
- 2) あらゆる年齢に対応できる専門的なてんかん診療を行っている  
日本精神神経学会、日本神経学会、日本脳神経外科学会、日本小児神経学会が認定する常勤の専門医が各1名以上おり、  
それぞれは日本てんかん学会が認定する専門医ないし日本てんかん学会主催の教育的セミナーを受講した者
- 3) 長時間ビデオ脳波同時記録検査に基づくてんかん診断（年間50件以上）
- 4) MRI装置を常備する施設であること。
- 5) てんかん医療を運営するための委員会会議の定期的開催（年間3回以上）  
委員は医師、看護師、臨床検査技師、MSW or PSW、てんかん診療支援コーディネーター、連携医療事務
- 6) てんかん医療に携わる多職種合同てんかん症例検討会の実施（月1回以上）
- 7) 診療実績が下記の①～④すべてを満たすこと
  - ① てんかん手術の常時実施
  - ② けいれん重積状態に対する入院管理の常時実施
  - ③ てんかんに併存する精神医学的問題に対する専門的診断および診療の常時実施
  - ④ 指定難病・小児慢性特定疾患に合併した薬剤治療抵抗性てんかんの診療の常時実施

## 2023年度包括的てんかん専門医療施設認定

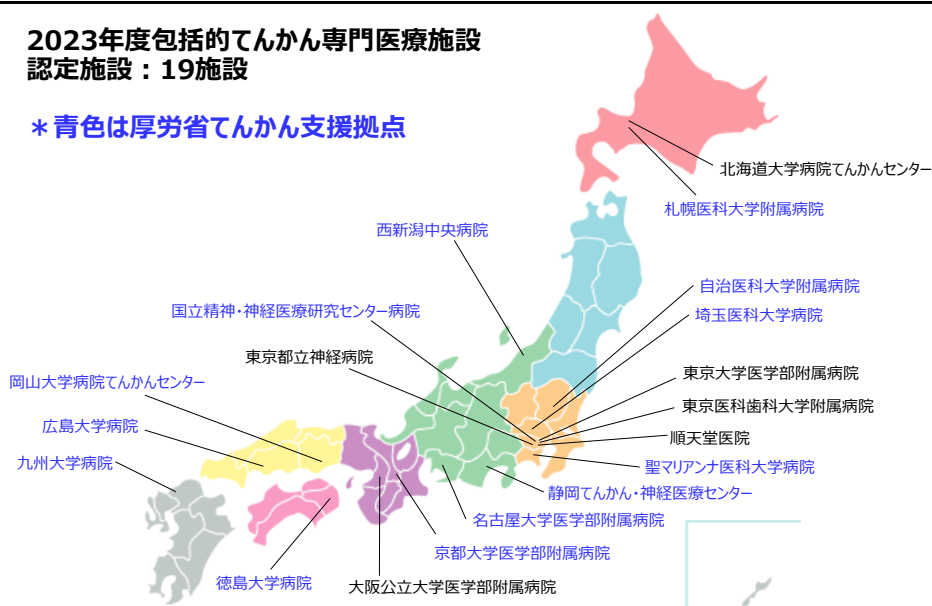
19施設を認定

- 西新潟中央病院
- 広島大学病院
- 九州大学病院
- 東京医科歯科大学附属病院
- 自治医科大学病院
- 東京大学医学部附属病院
- 徳島大学病院
- 札幌医科大学
- 北海道大学病院てんかんセンター
- 名古屋大学医学部附属病院
- 東京都立神経病院
- 国立精神・神経医療研究センター病院
- 静岡てんかん・神経医療センター
- 大阪公立大学医学部附属病院
- 京都大学医学部附属病院
- 岡山大学病院てんかんセンター
- 順天堂医院
- 聖マリアンナ医科大学病院
- 埼玉医科大学病院

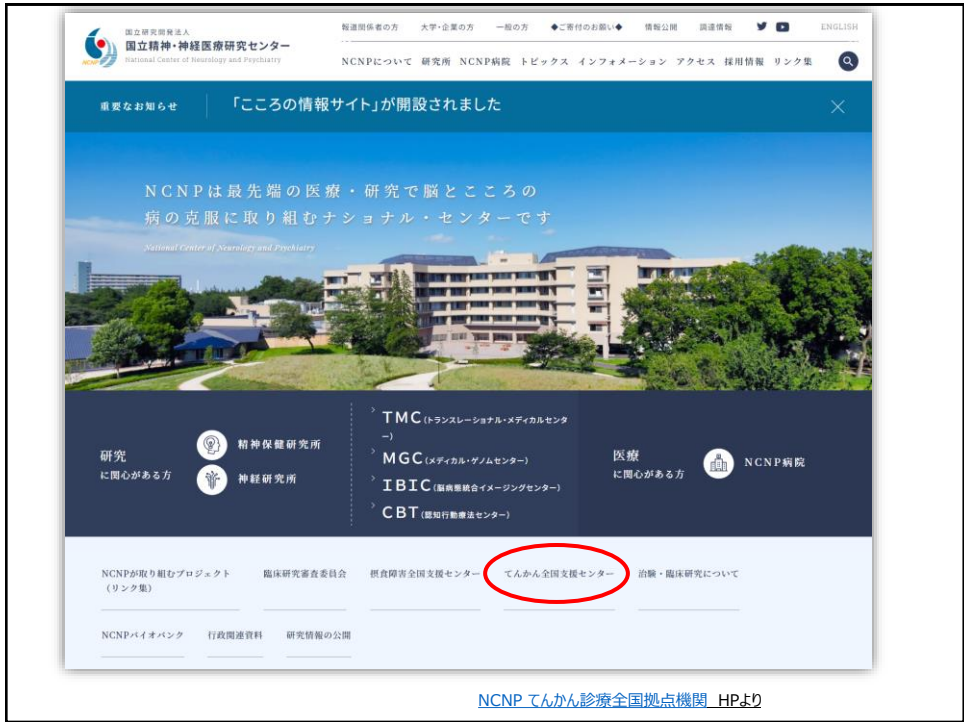
日本てんかん学会てんかん専門医療施設検討委員会資料より

## 2023年度包括的てんかん専門医療施設 認定施設：19施設

\* 青色は厚労省てんかん支援拠点



日本てんかん学会てんかん専門医療施設検討委員会資料より



## 全国てんかん支援センターが行っていること

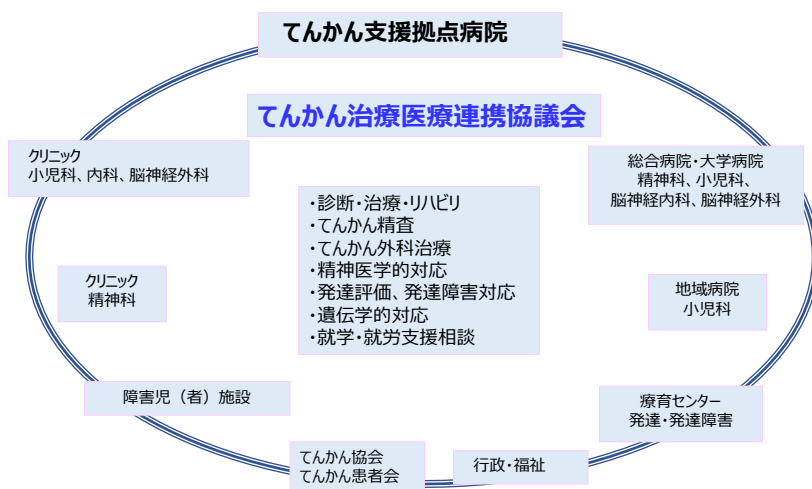
- (1) てんかん地域診療連携：移行期医療
- (2) てんかん診療支援コーディネーター認定制度
- (3) てんかん支援ネットワークの構築



National Center of Neurology and Psychiatry (NCNP)

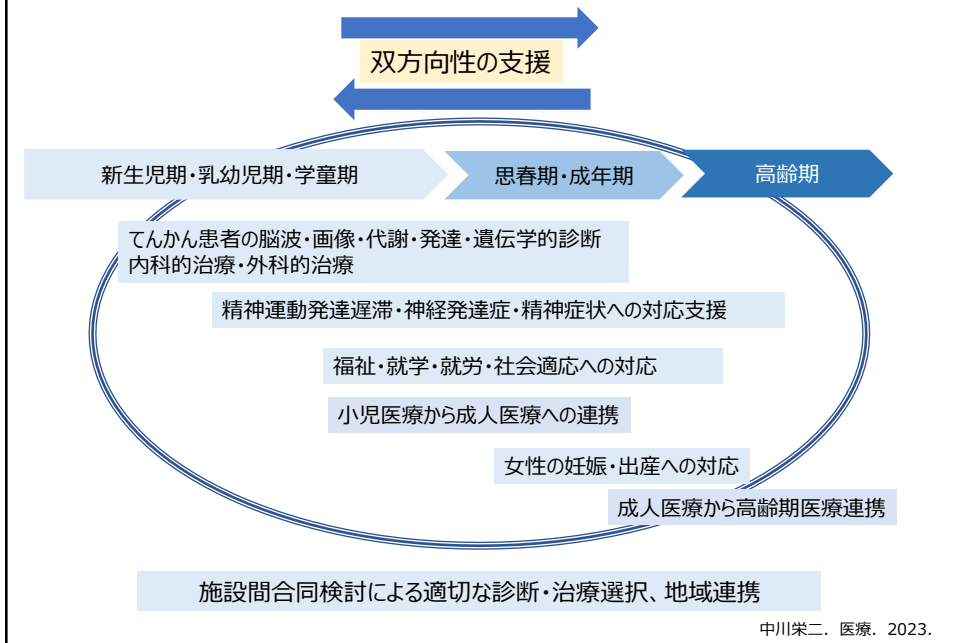
## てんかん地域診療連携体制事業(てんかん整備事業)

### てんかん地域診療コンソーシアム 多職種連携



中川栄二. 医療. 2023.

## てんかん地域診療連携：移行期医療



## てんかん診療拠点機関診療支援コーディネーター

### (役割)

てんかん診療拠点施設において、てんかん診療が円滑に行われるような医療側と患者側の調整

### (要件)

以下のすべての要件を満たすものである。

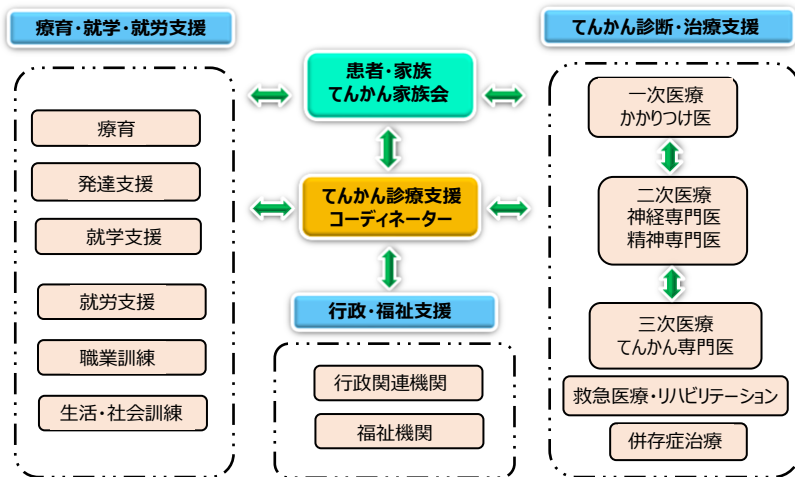
- 1) てんかん診療拠点施設に従事するもの
- 2) 社会保険制度、社会福祉制度に関する基本的な知識をもつもの
- 3) てんかんに関する基礎知識をもつもの
- 4) 患者側の不安や心理的ストレスに対する初歩的な心理相談能力をもつもの
- 5) **医療・福祉に関する国家資格を保有するもの**

### (業務)

- i) てんかん患者及びその家族への専門的な相談支援及び助言
- ii) 管内の連携医療機関等への助言・指導
- iii) 関係機関（精神保健福祉センター、管内の医療機関、保健所、市町村、福祉事務所、公共職業安定所等）との連携・調整
- iv) 医療従事者、関係機関職員、てんかん患者及びその家族等に対する研修の実施
- v) てんかん患者及びその家族、地域住民等への普及啓発



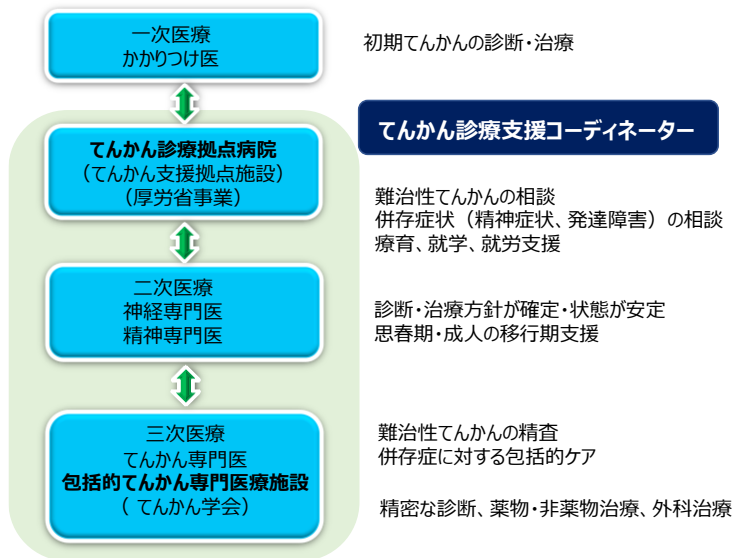
# てんかん診療支援コーディネーター



中川栄二, 精神科, 2020, 中川栄二, CLINICIAN, 2020, 中川栄二, 小児内科, 2022.  
 国立精神・神経医療研究センター病院, 患者のギモンに答える! てんかん診療のための相談サポートQ&A, 2021.

29

# てんかん診療支援の流れ



中川栄二, 精神科, 36 (6) 2020, 中川栄二, CLINICIAN, 20 (681) ; 2020, 中川栄二, 小児内科, 2022.<sup>30</sup>

## てんかん診療コーディネーター認定制度

### てんかん診療支援コーディネーター認定制度 基本ポイント（研修会：3時間以上の講義）

- ① てんかん地域診療連携体制整備事業（NCNP）が行う研修会（年2回開催）
- ② 全国てんかんセンター協議会（JEPICA）が行う総会への参加（年1回開催）
- ③ 地域てんかん診療拠点機関が行う研修会
- ④ てんかん学会、国際抗てんかん連盟関連の学会、地方会

上記3回の講座受講で認定証を発行する。以降3年間に上記の研修会、学会に6回以上の参加を基本とする。3年ごとに更新する。2020年度から認定証を発行。

\* てんかん診療拠点講習会

- ・2023年7月23日（日）、2023年12月17日（日）NCNP研修会
- ・2024年3月2-3日 JEPICA



2023年12/17日 10:00~16:30 2024年3月2日開催 参加費無料

てんかん診療支援コーディネーター研修会とは  
全国てんかん対策推進協議会の主催で5年

2023年度第2回てんかん診療支援コーディネーター研修会  
開催日程  
12/17(日) 10:00~16:30

2024年度第1回てんかん診療支援コーディネーター研修会  
開催日程  
3/2(土) 10:00~16:30



多職種連携で築くてんかん支援の輪

2024年3月2日(土)・3日(日)

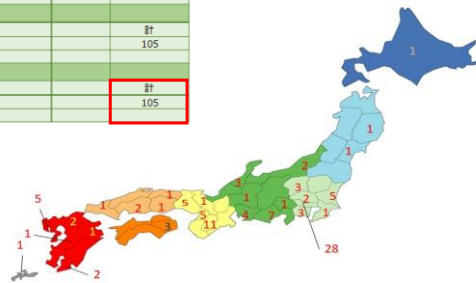
あわぎんホール

森 健治

NCNP てんかん診療全国拠点機関 HPより

## てんかん診療支援コーディネーター研修会受講者・認定者

過去の研修会での受講者数							
2020年 第1回	2020年 第2回	2021年 第1回	2021年 第2回	2022年 第1回	2022年 第2回	2023年 第1回	総受講者数
55	93	116	171	247	204	266	1152
職種別受講者数							
医師	看護師	SW	その他	計			
266	180	172	534	1152			
受講証発行数							
2020年 第1回	2020年 第2回	2021年 第1回	2021年 第2回	2022年 第1回	2022年 第2回	2023年 第1回	総発行数
55	93	57	90	146	139	158	738
職種別受講証発行数							
医師	看護師	SW	その他	総発行数			
131	162	154	291	738			
認定証発行数							
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	計			
6	32	49	18	105			
職種別認定証発行数							
医師	看護師	SW	その他	計			
23	29	30	23	105			

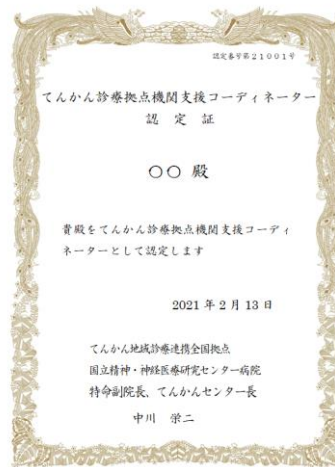


てんかん診療支援コーディネーター認定発行者数（2023年12月4日現在）

## てんかん診療支援コーディネーター受講証・認定証



受講証発行数 738



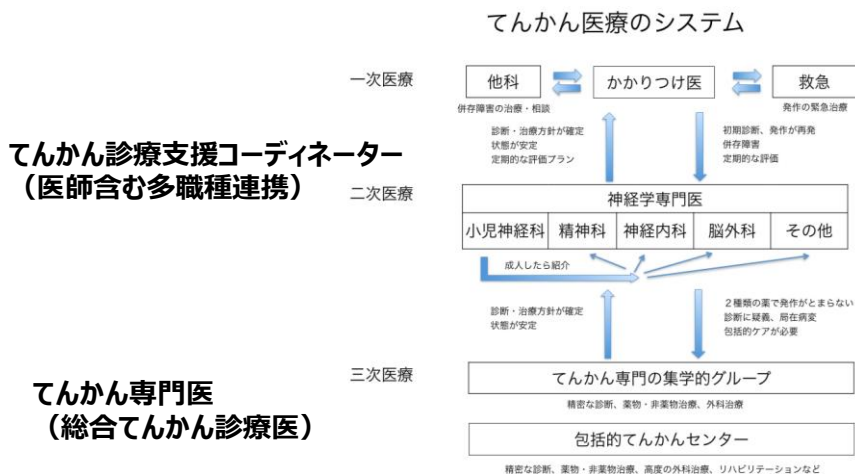
認定証発行数 105

[NCNP てんかん診療全国拠点機関 HPより](#)

33

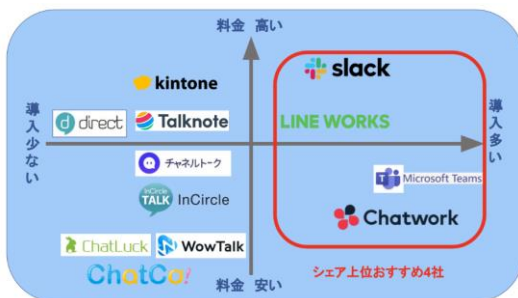
## てんかん診療支援コーディネーター（各診療専門医）

### てんかん専門医：総合てんかん診療医の育成が必要



## 各職種ごとのビジネスチャットツールの導入

PCやスマートフォンなどのデバイスによってリアルタイムで情報交換が可能なコミュニケーションツール



## 全国てんかん診療ネットワーク

てんかん  
支援  
ネットワーク

MENU

ホーム

一般の方へ/  
ご家族の方へ

てんかん診療に  
関わっている方へ

てんかん支援  
ネットワーク施設一覧

てんかん  
支援  
ネットワーク

Epilepsy  
Support Network  
JAPAN



このサイトはてんかんの地域診療連携の推進を目的として  
厚生労働省・都道府県およびてんかん学会・てんかん協会・全国てんかんセンター協議会の支援を下に  
てんかん地域診療連携体制整備事業により運営されています。

お知らせ  
Information

2023/09/26	施設一覧を更新しました	>
2023/08/28	施設一覧を更新しました	>
2023/08/04	施設一覧を更新しました	>

一覧へ >

[NCNP てんかん診療全国拠点機関 HPより](#)

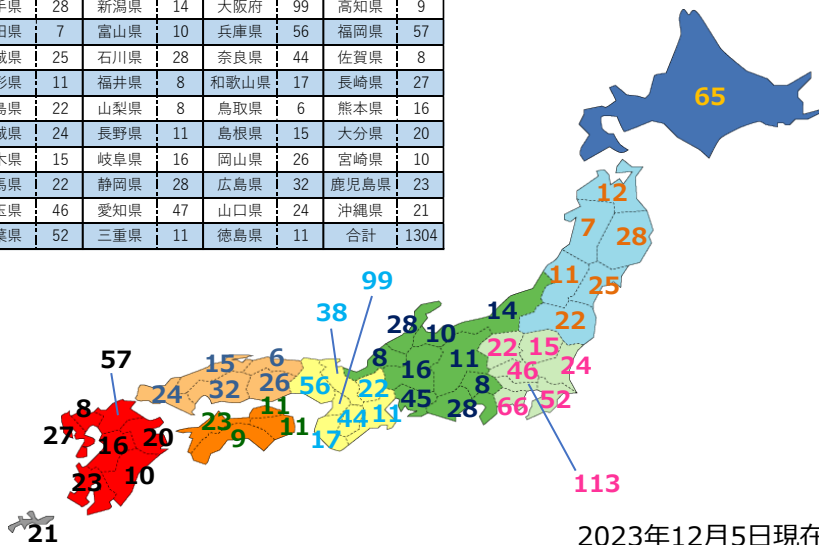
## てんかん支援ネットワーク参加施設数、各診療科別登録数

地方別	施設数	各診療科別登録数	内 訳					
			小児・ 小児神経	脳神経 外科	脳神経 内科	精神科	てんかん	その他
北海道	65	75	40	14	9	12	0	0
東北地方	105	129	44	16	39	25	3	2
関東地方	338	406	188	80	83	52	2	1
中部地方	170	213	93	35	44	27	3	11
関西地方	287	337	155	63	88	27	0	4
中国地方	103	128	51	28	30	18	0	1
四国地方	54	63	36	15	8	4	0	0
九州沖縄地方	182	203	74	45	47	35	0	2
合計	1304	1554	681	296	348	200	8	21

2023年12月5日現在

## てんかん支援ネットワーク 都道府県別登録施設数

北海道	65	東京都	113	滋賀県	22	香川県	11
青森県	12	神奈川県	66	京都府	38	愛媛県	23
岩手県	28	新潟県	14	大阪府	99	高知県	9
秋田県	7	富山県	10	兵庫県	56	福岡県	57
宮城県	25	石川県	28	奈良県	44	佐賀県	8
山形県	11	福井県	8	和歌山県	17	長崎県	27
福島県	22	山梨県	8	鳥取県	6	熊本県	16
茨城県	24	長野県	11	島根県	15	大分県	20
栃木県	15	岐阜県	16	岡山県	26	宮崎県	10
群馬県	22	静岡県	28	広島県	32	鹿児島県	23
埼玉県	46	愛知県	47	山口県	24	沖縄県	21
千葉県	52	三重県	11	徳島県	11	合計	1304



2023年12月5日現在

2023年度第2回てんかん診療支援コーディネーター研修会と  
全国てんかん対策連絡協議会のお知らせ

2023

12/17 日

ZOOMウェビナーで開催

参加費無料



以下URLもしくはQRコードより事前登録してください。  
ご参加用リンクを送付いたします。

[https://us02web.zoom.us/join/register/3416994065735/WN\\_35xQL1-hT3i-TNt9sEbWow](https://us02web.zoom.us/join/register/3416994065735/WN_35xQL1-hT3i-TNt9sEbWow)

てんかん診療支援コーディネーター研修会プログラム (各講演研修30分)

(敬称略)

1. 全国てんかん地域診療支援整備事業の現況 / 中川 栄二
2. 精神症状と精神科治療の基礎知識 / 渡邊 さつき
3. 院内認定てんかん専門医療者制度とその役割 / 加藤 慎吾
4. てんかんと心理社会 / 小川 舞美

12時～12時半休憩



5. てんかんと発達障害 / 中川 栄二
6. 長時間ビデオ脳波モニタリング検査の実際 / 佐藤 美輝
7. てんかんに対するデバイス治療 / 岩崎 真樹
8. てんかん患者が利用できる社会福祉制度 / 宮坂 歩

15時～

2023年度第2回全国てんかん対策連絡協議会  
ZOOMミーティングで開催



次ページの注意事項を  
よくお読みになってください

2023年度第2回てんかん診療支援コーディネーター研修会と全国てんかん対策連絡協議会

開催月日 2023年12月17日(日) 10時開始 ZOOMウェビナーで開催

第一部 10時～14時半

てんかん診療支援コーディネーター研修会 (各講演研修 30分)

1. 全国てんかん地域診療支援整備事業の現況 / NCNPてんかん診療部 中川 栄二
2. 精神症状と精神科治療の基礎知識 / 埼玉医科大学病院神経精神科 渡邊 さつき
3. 院内認定てんかん専門医療者制度とその役割 / 西新潟中央病院看護部 加藤 慎吾
4. てんかんと心理社会 / 東北大学大学院医学系研究科 小川 舞美

12時～12時半休憩

12時半～14時半

5. てんかんと発達障害 / NCNPてんかん診療部 中川 栄二
6. 長時間ビデオ脳波モニタリング検査の実際 / NCNP脳神経外科・臨床検査 佐藤 美輝
7. てんかんに対するデバイス治療 / NCNP脳神経外科 岩崎 真樹
8. てんかん患者が利用できる社会福祉制度 / NCNP医療連携福祉相談部 宮坂 歩

第二部 15時～17時

2022年度第2回全国てんかん対策連絡協議会 ZOOMミーティングで開催

1. 厚生労働省からの挨拶・報告
  2. てんかん学会からの挨拶(報告) 川合 謙介 理事長
  3. てんかん協会からの挨拶・報告 梅本 里美 理事長
  4. 全国てんかん支援拠点からの報告 中川 栄二
  5. てんかん地域支援施設からの報告 (各15分間)  
(テーマ) てんかん治療医療連携協議会の運営・活動について
  - 1) 岡山大学病院てんかんセンター
  - 2) 千葉循環器病センターてんかんセンター
  - 3) 名古屋大学医学部附属病院 てんかんセンター
6. 総合討論



# てんかん支援拠点事業報告書のお願い

## 2024年2月29日 締め切り



てんかん全国支援センター

てんかん地域診療  
連携体制整備事業について

てんかん支援  
拠点病院のご案内

てんかん全国  
支援センターについて

てんかん診療支援  
コーディネーター認定制度

活動報告

事業報告

関係機関へのリンク

### 事業報告

てんかん地域診療連携体制整備事業における報告書です。全国てんかん対策連絡協議会において、全国支援センター、支援拠点病院等の活動が報告されています。

#### 2022年度（令和4年度）

##### 統合版

📄 2022年度全国拠点機関報告書 (6.9MB)

##### 分割版

📄 表紙

📄 理事長挨拶

📄 てんかん地域診療連携体制整備事業2022年度報告に寄せて

📄 目次

📄 全国てんかん対策連絡協議会組織

📄 全国てんかん支援センター及びてんかん支援拠点病院一覧